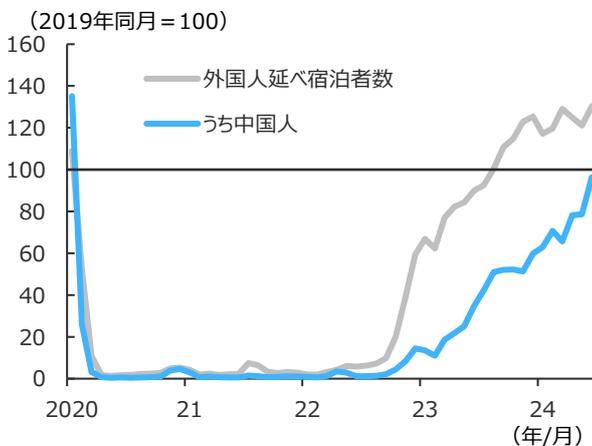


定期便の再開を受け、中国人観光客の回復が本格化 —中国人割合が高い地域のインバウンド需要回復を後押し—

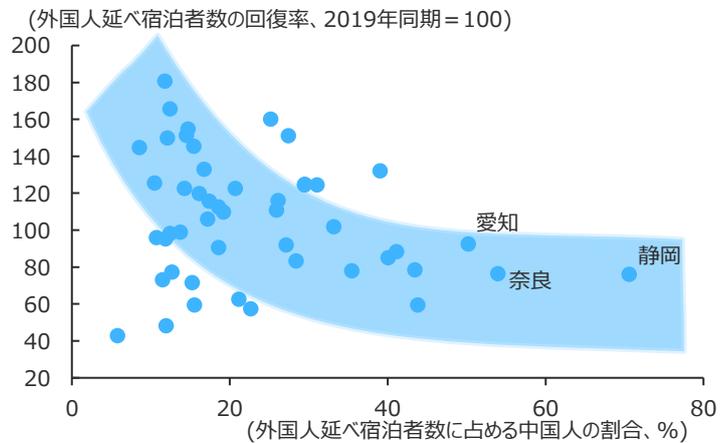
- (1) わが国のインバウンド需要は堅調に回復。2024年6月の外国人延べ宿泊者数は2019年に比べ3割増と、コロナ禍を大きく上回る水準へ増加。一方、中国人観光客の戻りは全体に比して遅れがみられる状況。中国人延べ宿泊者数は本年6月によやくコロナ禍前並みの水準に到達（図表1）。
- (2) 中国人観光客の動向は、地域ごとのインバウンド需要の回復度合いに大きく影響。コロナ禍以前に中国人観光客の割合が高かった地域では、インバウンド需要回復の勢いが弱い傾向（図表2）。
- (3) 先行きを展望すると、昨年冬の段階でコロナ禍前の5割を下回る便数にとどまっていた日中間の国際定期便は、今夏に8割強の水準まで回復（図表3）。中国との国際定期便の再開を受け、これまで回復が遅れていた地域でも中国人観光客の回復が加速すると予想。
- (4) ただし、中国景気の悪化に注意が必要。中国の消費者マインドは2022年初めに大きく悪化して以降、落ち込んだ状態が持続（図表4）。中国人が海外旅行に慎重となった場合、中国人依存度が高い地域のインバウンド需要回復は引き続き期待を下回る恐れも。

（図表1）外国人延べ宿泊者数



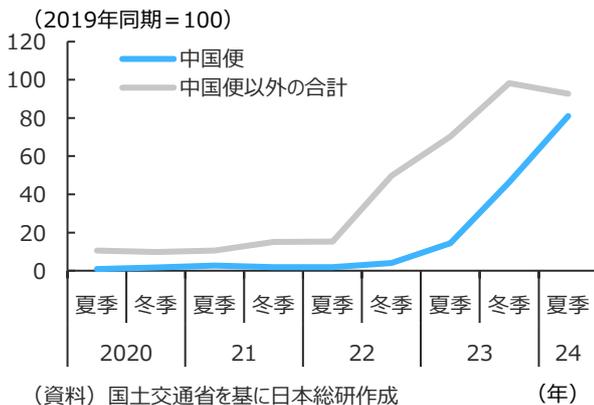
（資料）観光庁を基に日本総研作成
（注）従業員数10人以上の施設が対象。

（図表2）都道府県別宿泊者数の回復率と中国人依存度



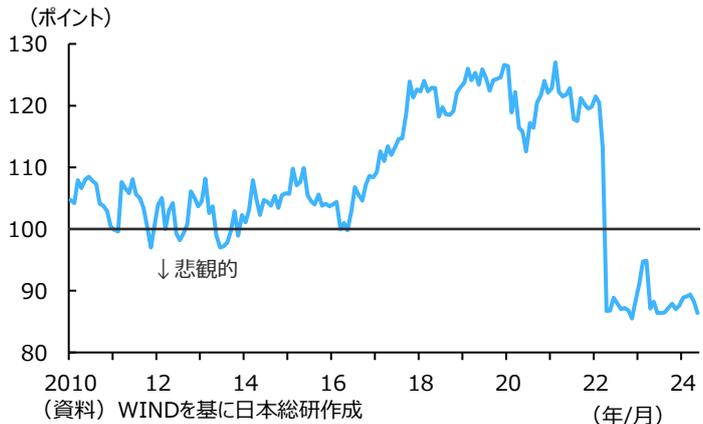
（資料）観光庁を基に日本総研作成
（注）外国人延べ宿泊者数の回復率は2019年1～5月と2024年1～5月の比較。外国人延べ宿泊者数に占める中国人割合は、2019年時点。従業員数10人以上の施設が対象。

（図表3）国際定期便の回復率



（資料）国土交通省を基に日本総研作成

（図表4）中国の消費者マインド



（資料）WINDを基に日本総研作成

【ご照会先】調査部 研究員 中野萌希 (nakano.tR07960@jri.co.jp,080-7294-5865)

本資料は、情報提供を目的に作成されたものであり、何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。本資料は、作成日時時点で弊社が一般に信頼出来るとされる資料に基づいて作成されたものですが、情報の正確性・完全性を保証するものではありません。また、情報の内容は、経済情勢等の変化により変更されることがあります。本資料の情報に基づき起る損害及び第三者に損害が発生したとしても執筆者、執筆にあたっての取材先及び弊社は一切責任を負わないものとします。